

無理難題の小学校英語でも、どうする⑤

中学校も大変！

英語の授業崩壊から学級崩壊

小学校英語の問題は、実は小学校にとどまりません。むしろ中学校が危機的状況になる可能性があります。中学校で学級崩壊、英語の授業崩壊が起こる可能性がかなり高いと思われま

中学校においては、まず前提として中1レベルを

小学校ですでに学んでいるということがあり、そのことを前提に、教科書が作成されます。

問題は、新出単語数です。専門的には無謀と言わなければなりません。小学校で600語、700語身につけると言っています。半身につければ



いい方だと思えます。

しかし、すでに述べたように、1割ができればよい、上位に合わせるといふ国の方針ですから、かなり高めに設定されています。中学校はさらにそれに加えて、1600語、1800語の単語を身につけよ、ということになります。中学校では現

在の単語数は、1200語程度です。

小学校での600語、700語に中学校での1600語、1800語を足すと、2200語、2500語になります。つまり現在の中学生が接している語彙の2倍になるんです。

1980年代に、いかな言葉ですが、いわゆる「落ちこぼれ」問題が広がり、学級の「荒れ」が広がりました。あのととき何があつたかということ、教える内容を減らさずに授業時間を減らしたので

す。

英語の場合、中学校で週4時間から3時間に減らしました。そういうことをしたので、学習内容のひどいつめ込みになつてしまい、その結果、子どもたちが荒れたわけです。新学習指導要領は、それ以上です。いきなり2倍です。

こんなにレベルをあげてしまうと、小学校で始まる英語格差が大きく拡大することが予想されます。

難解な学習内容が中学校に下りてくる

それだけではなく、中学校の学習内容に「現在完了進行形」が入ってきます。「現在完了進行形」というのは、has + 過去分詞、それにbe + ingの進行形が加わるわけです。また、かつては高1や高2でやっていた仮定法を中学校におろすのです。

中学の英語の学習で、ようやく時制の一致を理解したと思ったら、仮定法は時制の一致を崩します

「教育要求書」に基づく
高石市教委交渉
 11月22日(木)18時～市役所にて
 ご参加下さい
 和泉市・忠岡町の交渉は日程調整中です。

高石・忠岡の先生方には信じてもらえないと思いますが和泉市の職員室パソコンは超重い！超遅い！

泉北教組は来年度予算について、和泉市・高石市・忠岡町各教育委員会に要求書を提出しました。回答を待って交渉を行う予定です。

このうち和泉市では、重点要求のトップに「校務用パソコンのサーバー接続状況を緊急に改善すること」を置きました。例年の「トイレ・プール等の学校施設・設備の改善」を後に回しての要求です。高石市・忠岡町の先生方には信じてもらえないのですが、和泉市

の職員室の校務用パソコンは

起動に5分以上かかるサーバーとのデータ往復に10分以上かかる

ワード・エクセルがフリーズという事態が、昨年の機種更新依頼が続いています。昨年度の交渉で市教委は「校務用パソコンの動作が遅いことを改善するための対応策について検討を進めている。」と回答しましたが、全く改善されていません。

今やパソコンは、先生方の「ストレス」の最大要因です。また、「パソコンの動きが多少スムーズな時間帯（早朝・深夜）に仕事を」を逆行させる事態も引き起こしています。

泉北教組は、和泉市教委が直ちに有効な対策を講ずるよう求めて交渉を行います。



ので、かなりわけがわからなくなる子が出てくると思えます。仮定法は、ある程度思考力が発達しないと難しいのです。しかもこのレベルの授業を英語でやれと言っているのです。

こんなに難しくしているのは、最初に述べた、上位1割ができればよいという政策だからです。

(つづく)

和歌山大学教育学部 英語教育

江利川 春雄